

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立伝法幼稚園学校協議会

1 総括についての評価

今年度の総括について、目標の達成状況や、保護者アンケート・職場内アンケートの結果から、評価は妥当であるといえる。

今年度は、教職員が半数変わる中で、園内の自然環境を年度当初から確認しあい、豊かな自然環境をうまく活用できるように保育を行ってきた。また、今年度は保育所・小中学校、消防署や警察署など様々な地域との交流の機会を多くもつことができたことも、教育内容の充実と理解につながったと思われる。目標設定が十分に満たされているものについては引き続き現在の高評価を維持し、中期目標に至っていないものに関しては、来年度達成できるよう、さらなる教育内容の充実と発信に努めていくことが大切である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

○年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。

- ①幼稚園は、自分の命を守るための行動が身につくように避難訓練や安全指導に取り組んでいますか。
- ②お子さまは「自分が好き」「友達が好き」という気持ちを持ち、自分のことも友達のことも大切にしている気持ちが育っていますか。
- ③幼稚園では個々の幼児理解に努めたり、互いの良さを認め合う気持ちを育んだりしていますか。

各項目における最も肯定的な回答の割合は①95%、②79%、③93%となり、①・③の項目は、最も肯定的な回答の割合が、年度目標・中期目標を上回り、保護者アンケートの結果、高い評価を得ることができた。②に関しては、最も肯定的な回答の割合は目標に達成しなかったものの、肯定的な回答の割合は100%であった。

内容として、①避難訓練においては消防署や警察署の専門機関に来ていただき指導をしていただいたことや教職員間でどのように臨機応変に対応できるか計画を立てたこと、②地域の小中学校や保育所との交流、未就園児活動の充実などを通して様々な年齢の人との関わりをもてる機会を多くもったことなどが、保護者アンケートの評価につながったと思われる。また、③においては、幼児一人一人の情報を教職員間でその都度共有したこと、保護者にクラスの活動を降園時に話したり、HPやクラスだより等様々な方法で定期的に知らせたりしたことが高評価につながったと考える。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。

- ①遊びを通して、「知・徳・体」をバランスよく育む保育を実践していますか。
- ②お子さまは様々な活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいきますか。
- ③幼稚園は健康的な生活習慣が身につくような指導に努めていますか。

各項目における最も肯定的な回答の割合は①98%、②81%、③95%となり、①・③の項目は、最も肯定的な回答の割合が、年度目標・中期目標を上回り、保護者アンケートの結果、高い評価を得ることができた。②に関しては、最も肯定的な回答の割合は目標に達成しなかったものの、肯定的な回答の割合は100%であった。

今年度の幼稚園の研究テーマ「身近な自然に興味や関心を持ち、関わって遊ぶ中で、好奇

心や探究心を育む」に基づき、園内の自然環境を見直し、日々保育の中に取り入れたり、それを再構築しながら保育内容の工夫に努めたりした。また、幼児一人一人の実態に合わせた保育を取り入れ「知・徳・体」をバランスよく育めるよう細かな打ち合わせを行ってきた。日々の保育を共有し、教職員が同じ目標に向かって、共通理解をもって取り組んできたことが高い評価への要因になったと考えられる。③の項目では、生活習慣について映像や実体験を大切にしながら分かりやすく指導していったことで、幼児自身が自分で取り組もうとする姿勢が見られるようになった。そのような姿や、今年度も「ふりかえりシート」を用いて保護者啓発をしてきたことが、高い評価への要因になったと考えられる。

年度目標：【**学びを支える教育環境の充実**】

○年度末の職場内アンケート・保護者アンケートにおける次の項目について、最も肯定的な回答の割合を85%以上にする。

- ①仕事の効率化が進み、働き方改革がなされていますか。
- ②様々な研修を通して、自身の資質向上に努めることができましたか。
- ③幼稚園は様々な方法（でんぼうっこやホームページ等）で教育内容を知らせていると思いますか。

各項目における最も肯定的な回答の割合は①91%、②100%、③93%となり、年度目標・中期目標の85%以上を大幅に超え、目標を達成することができた。

①と②の職場内アンケートでは、それぞれの教職員が園務分掌の中での担当内容を専門的に学び、園内で伝達研修を行ってきたこと、教職員間の連携を図りながら業務の進捗状況を確認し、互いに助け合ってきたことが園全体の仕事の効率化を図ることができた結果だと考えられる。③においては、リアルタイムである「ホームページ」、クラスの教育内容・子どもの姿に特化した「クラスだより」、園の方針や教職員の取り組みについての思いが感じられる「園長室だより」と、様々な方法で様々な角度から保護者発信を行ってきたことが、園の教育内容の理解と高評価につながったと思われる。

3 今後の学校園の運営についての意見

教職員が様々な取り組みと発信を行ってきたことが、全てのアンケート結果の高評価につながっていると思われる。毎年、アンケートの回収率が100%であることも、保護者が幼稚園と共に歩む姿勢をもち、教育内容に大変理解を得ている結果だと考えられる。今後も保護者と対面できる幼稚園の利点を生かし、教育活動の発信を進めていかれたい。

生活習慣については、養護教諭が様々な方法で幼児の実態に合わせ保健指導を行ってきたことで、生活習慣が身に付いたのだと感じる。防災、防犯訓練に関しては、専門機関との連携を続け、臨機応変に対応できるよう、取組内容を模索しながら、安全教育の推進に努めていかれたい。働き方改革においては、職員の人数が少ない中でも、足並みを揃え協力しながら職務軽減ができるよう努められている。以上、今回の協議会で出た意見を来年度の運営に反映していき、地域の様々な機関や保護者、PTAの役員などの協力を得て、さらなる教育内容の充実を図ってほしい。